

前回に引き続き、有限次元のノルム空間のノルムが全て同値になることを証明した。この定理の重要性から、講義で行なった証明と別証を載せた。次に、Norm空間の有限次元の線形部分空間が Banach空間 になることを示した。

定理 1.3. 有限次元のノルム空間  $V$  のノルムは全て同値である。

証明.  $\mathfrak{B}^* = \{b_1^*, b_2^*, \dots, b_n^*\}$  を  $V$  の基底  $\mathfrak{B} = \{b_1, b_2, \dots, b_n\}$  の双対基底とすると、

$$\langle v, w \rangle_{\mathfrak{B}} = \sum_{\nu=1}^n b_{\nu}^*(v) b_{\nu}^*(w)$$

は  $V$  上の内積になる。このとき、ノルム  $\eta_{\mathfrak{B}}(v) = \sqrt{\langle v, v \rangle_{\mathfrak{B}}}$  が  $V$  の任意のノルム  $\| \cdot \|$  と同値であることを示す。

イ). 任意の  $v \in V$  に対して、 $\|v\| \leq \beta \eta_{\mathfrak{B}}(v)$  なる  $\beta > 0$  が存在すること。

$$\begin{aligned} \|v\| &= \left\| \sum_{i=1}^n \langle v, b_i \rangle_{\mathfrak{B}} b_i \right\| \leq \sum_{i=1}^n |\langle v, b_i \rangle_{\mathfrak{B}}| \|b_i\| \leq \sum_{i=1}^n \eta_{\mathfrak{B}}(v) \eta_{\mathfrak{B}}(b_i) \|b_i\| \\ &\leq \left( \sum_{i=1}^n \eta_{\mathfrak{B}}(b_i) \|b_i\| \right) \eta_{\mathfrak{B}}(v) \end{aligned}$$

したがって、 $\beta = \sum_{i=1}^n \eta_{\mathfrak{B}}(b_i) \|b_i\|$  とおけばいい。

ロ). 任意の  $v \in V$  に対して、 $\eta_{\mathfrak{B}}(v) \leq \alpha \|v\|$  なる  $\alpha > 0$  が存在すること。

$$D = \{v \in V \mid \eta_{\mathfrak{B}}(v) \leq 1\} \quad \Delta = \{v \in V \mid \|v\| \leq 1\}$$

とおいたときに、 $\Delta \subset \alpha D$  なる  $\alpha > 0$  が存在することを示す。もし、 $\Delta \subset \alpha D$  なる  $\alpha > 0$  が存在しないと仮定すれば、 $\eta_{\mathfrak{B}}$ -ノルムで有界でない点列  $\varphi: \mathbb{N} \rightarrow \Delta$  が存在する。(すなわち、 $\eta_{\mathfrak{B}}(\varphi(\nu)) \rightarrow \infty$  ( $\nu \rightarrow \infty$ ))  $\partial D$  は点列コンパクトだから、点列  $\left\{ \frac{\varphi(\nu)}{\eta_{\mathfrak{B}}(\varphi(\nu))} \right\}_{\nu \in \mathbb{N}} \subset \partial D$  は、収束部分列を含む。すなわち、

$$\exists c \in \partial D \quad \text{such that} \quad \lim_{\nu \rightarrow \infty} \left( \frac{(\varphi \circ \tau)(\nu)}{\eta_{\mathfrak{B}}((\varphi \circ \tau)(\nu))} \right) = c$$

ただし、 $\tau: \mathbb{N} \rightarrow \mathbb{N}$  は狭義単調増加列とする。

$$\therefore \lim_{\nu \rightarrow \infty} \eta_{\mathfrak{B}} \left( \left( \frac{(\varphi \circ \tau)(\nu)}{\eta_{\mathfrak{B}}((\varphi \circ \tau)(\nu))} \right) - c \right) = 0$$

よって、イ)により、

$$\left\| \left( \frac{(\varphi \circ \tau)(\nu)}{\eta_{\mathfrak{B}}((\varphi \circ \tau)(\nu))} \right) - c \right\| \leq \beta \eta_{\mathfrak{B}} \left( \left( \frac{(\varphi \circ \tau)(\nu)}{\eta_{\mathfrak{B}}((\varphi \circ \tau)(\nu))} \right) - c \right) \rightarrow 0 \quad (\nu \rightarrow \infty)$$

一方、

$$\left\| \frac{(\varphi \circ \tau)(\nu)}{\eta_{\mathfrak{B}}((\varphi \circ \tau)(\nu))} \right\| = \frac{\|(\varphi \circ \tau)(\nu)\|}{\eta_{\mathfrak{B}}((\varphi \circ \tau)(\nu))} \leq \frac{1}{\eta_{\mathfrak{B}}((\varphi \circ \tau)(\nu))} \rightarrow 0 \quad (\nu \rightarrow \infty)$$

故に、 $c = 0$  となり、 $c \in \partial D$  に矛盾する。 □

<sup>2</sup>数学工房 <http://www.sugakukobo.com/>

別証.  $\mathfrak{B}^* = \{b_1^*, b_2^*, \dots, b_n^*\}$  を  $V$  の基底  $\mathfrak{B} = \{b_1, b_2, \dots, b_n\}$  の双対基底とすると、

$$\langle v, w \rangle_{\mathfrak{B}} = \sum_{\nu=1}^n b_{\nu}^*(v) b_{\nu}^*(w)$$

は  $V$  上の内積になる。このとき、ノルム  $\eta_{\mathfrak{B}}(v) = \sqrt{\langle v, v \rangle_{\mathfrak{B}}}$  が  $V$  の任意のノルム  $\eta$  と同値であることを示す。

$$\eta(u) = \eta \left( \sum_{j=1}^n b_j^*(u) b_j \right) \leq \sum_{j=1}^n |\langle u, b_j \rangle_{\mathfrak{B}}| \eta(b_j) \leq \left( \sum_{j=1}^n \eta(b_j) \right) \eta_{\mathfrak{B}}(u) \quad \text{for } \forall u \in V$$

この不等式から、 $\eta$  は、 $\eta_{\mathfrak{B}}$ -ノルムに関して、一様連続であることがわかる。また、

$$\partial B_1 = \{u \in V \mid \eta_{\mathfrak{B}}(u) = 1\}$$

は  $\eta_{\mathfrak{B}}$ -コンパクトだから、「Weierstraß の定理」により、 $m = \min\{\eta(u) \mid u \in \partial B_1\}$ ,  $M = \max\{\eta(u) \mid u \in \partial B_1\}$  なる  $m, M \in \mathbb{R}$  が存在して、

$$m \leq \eta(u) \leq M \quad \text{for } \forall u \in V$$

(ここで、 $m = \eta(u_0)$  なる  $u_0 \in \partial B_1$  が存在するから、 $m > 0$  となることに注意する。) したがって、 $\forall u \in V \setminus \{0_V\}$  に対して、

$$m \leq \eta \left( \frac{u}{\eta_{\mathfrak{B}}(u)} \right) \leq M$$

$$\therefore m \eta_{\mathfrak{B}}(u) \leq \eta(u) \leq M \eta_{\mathfrak{B}}(u)$$

この不等式は  $u = 0_V$  についても成立する。故に、二つのノルム  $\eta_{\mathfrak{B}}$ ,  $\eta$  は同値である。 □

練習問題 1.2.  $V$  を有限次元の線型空間とすると、

1.  $\mathfrak{B}^* = \{b_1^*, b_2^*, \dots, b_n^*\}$  を  $V$  の基底  $\mathfrak{B} = \{b_1, b_2, \dots, b_n\}$  の双対基底とすると、

$$\langle v, w \rangle_{\mathfrak{B}} = \sum_{\nu=1}^n b_{\nu}^*(v) b_{\nu}^*(w)$$

は  $V$  上の内積になることを示せ。

- 2.

$$\partial B_1^*(0) = \left\{ v \in V \mid \sum_{\nu=1}^n |b_{\nu}^*(v)|^2 = 1 \right\}$$

とおけば、 $\partial B_1^*(0) \subset V$  は点列コンパクトになることを示せ。

定理 1.4.  $(V, \|\cdot\|)$  を Norm 空間とする。  $M \subset V$  を  $V$  の有限次元の線形部分空間とすると、 $M$  は Banach 空間になる。特に、ノルム  $\|\cdot\|$  より導かれる位相に関して、 $M$  は閉集合である。

記録 by J.S